

2013（平成25）年度第2回経営協議会議事要録

日 時 2013年6月24日（月）10時

場 所 KKRホテル名古屋 福寿の間

出 席 学内委員5名

学外委員5名（委任状提出1名含む） 欠席1名

会議成立

開会10時00分

議事に先立ち、学長からあいさつがあった後、ミッションの再定義の状況及び今後の動き、国立大学法人学長・大学共同利用機関法人機構長会議において説明のあった教育再生実行会議の「第三次提言」として、①グローバル化に対応した教育環境づくり、②社会を牽引するイノベーション創出のための教育・研究環境づくり、③学生を鍛え上げ社会に送り出す教育環境の強化、④大学等における社会人の学び直し機能の強化、⑤大学ガバナンス改革、財政基盤の確立による経営基盤の強化、及び文部科学省の「今後の国立大学の機能強化に向けての考え方」等について説明があった。

次いで、総務課長から、本日の配付資料の確認及び会議日程等の説明があった。

議 題

1. 2013（平成25）年度第1回経営協議会議事要録の承認について

学長から提議され、原案どおりこれを承認した。

2. 平成24事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

学長から提議され、学長から、標記報告書については、6月28日までに国立大学法人評価委員会に提出するものであること、内容についてはさらに精査するため字句修正については一任願いたいこと等の説明の後、大学の概要、全体的な状況、項目別の状況（業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供、その他業務運営、それぞれに係る特記事項等）について資料に基づき説明があり、これを承認した。

3. 平成26年度概算要求について

学長から提議され、白石委員から、プロジェクト分及び基盤的設備等整備分については提出期限が1ヶ月遅くなったことにより、さらに精査するため順位を付していないことの説明の後、①プロジェクト分として「学習指導案データベース化を軸とする教育実習支援システムの構築」をはじめ継続4件、「グローバル人材育成を主軸とした教員養成プログラムの開発」をはじめ新規4件、②基盤的設備等整備分として、「附属学校の教育用コンピュータ高度化によるインタラクティブな授業展開」をはじめ2件、③施設整備費として、「講堂の耐震改修」をはじめ12件の事業について、資料に基づきそれぞれ事業概要、要求額等の説明があり、質疑応答の後、これを承認した。

○委員からの質疑 ●大学側の回答

○プロジェクト分の「学習指導案データベース化」の使い道は、教育実習のみを対象とした事業か。レベルの高い指導案を作り講義等で使用できるものを作っても

らいたい。

- 教育実習で使うものではあるが、教科教育の授業の中でいつでも使えるものも想定している。現在、愛知県、名古屋市の指導案を学生は利用している。
- プロジェクト分の「愛知県総合教育センターとの連携・協働」で愛知県との連携は進んでいるようであるが、名古屋市との連携も今後進めてもらいたい。
- 今回の事業は協定を結んでいることが条件となっているため、愛知県総合教育センターと進めていくことになるが、公開講座で名古屋市の生涯学習推進センターと連携を進めているところである。
- 一部の市町だけではなく、愛知県全体で進めてもらいたい。
- ミッションの再定義では教育委員会との連携が強調されていることから、連携をさらに進める必要があると思う。
- 今年度で終了する事業があるということだが、その事業の今年度の事業費はいくらか。
- 「外国人児童生徒を軸とした多文化共生社会をめざす教育支援の構築」の経費が約770万円、「小学校外国語活動を前提とした小・中・高での英語関連科目の連携を進める英語教員養成カリキュラムの開発と授業実践力を高めるための教育改革」の経費は約1,260万円である。
- 小学校英語を始める時期をどう考えるか。
- グローバル化は広い観点から考える必要がある。英語は話せるけど論理的思考はどうか、という問題もある。大学としては社会的提言ができるような研究をしたいと考える。
- 附属の小学校、中学校を持っているので、大学の研究も必要だが、指導者のグローバル人材化ができていないと、ツールだけの教育になりかねない。
- HATO事業のサマースクールで、海外で研修を実施する計画があり、本学からも1名参加する予定である。
- 小学校英語の導入は、現場サイドではパンク寸前のようなようである。理科の質も落ちてしまい兼ねず、いじめの問題もあり、実際に英語を教えるのは大変であると思う。
- 今までは語学を主体に置いていたが、今後は国際理解力の要素を入れた幅広い人材の養成を行いたい。

5. 2012（平成24）年度決算について

学長から提議され、白石委員から、①2012年度収入・支出、②貸借対照表、③損益計算書、④キャッシュフロー計算書、⑤業務実施コスト計算書、⑥利益の処分、について、資料に基づきそれぞれ2011年度との比較を含め説明があり、質疑応答の後、これを承認した。

- 業務実施コスト計算書に表示されている学生一人に対する負担額については、附属学校の生徒も計算に入っているのか。
- 金額については附属分も入れるが、示し方として大学生のみの数で割っている。
- 学生一人あたりの部分に「大学生に限る」を明記したらどうか。
- 法定文書に入れることは難しいが、学内の資料にはできる限り入れることとしたい。
- 愛知教育大学の状況はわかったが、同規模の大学との比較を示してもらいたい。
- 他の教育大学の比較は行っており、次回お示ししたい。

報 告

1. 2013年度会計監査人の選任について

白石委員から、文部科学省に提出した2013年度会計監査人の選任について、申請どおり選任された旨資料に基づき報告があった。

2. その他

(1) 次回の開催日について

学長から、次のとおり報告があった。

第3回

日 時 2013年8月5日(月) 14時00分

場 所 名鉄グランドホテル 柏の間

閉会 11時57分